**みょうがとみょうがたけ**

みょうがは、のころからの人々がきなべでした。１８０４～１８２９年に書かれた『』という本には、「みょうがは、のや、のにあり、ほかのにべると大きくおいしいので、でられているみょうがのくは、このりからされている」というようなことが書かれています。

また、にあるは、みょうがのとばれていました。さらに、のの近くには、「みょうが」というがあり、そこにはのみょうがのが書かれています。

しかし、からにあったみょうがのは、にわり、たくさんの人がみめ、とともになくなってしまいました。

のをしているさんは、ある日、もしかしたらからにんでいるのに、みょうがが見つかるのではないかといました。それは、みょうがはをまいてするのではなく、というがにびてがっていくものだからです。

２０１０年ににんで、「みょうが」という学生などによる１０のグループを作り、を歩き回ってしました。

すると、２６年からにんでいるという古いので見つかったのです。そのみょうがのをいただき、みょうがをしたがある、のさんにんで、でしてもらいました。

してから２年目の９月に、ぷっくらして赤い、のがするみょうがの「みょうがの子」がえてきました。さらに、さんは、「みょうがたけ」のにりみました。には「みょうがたけ」というものをのも食べていたそうなのです。みょうがのをのをってえて、の光がたらないようにカーペットをかぶせてすると、やわらかいいみょうががえてきます。これが「みょうがたけ」です。

今日の給食はこの「みょうがたけ」が入っています。よくかむとりのあるみょうがのに気づくと思います。新宿区の小学生のさんには、このをれないでほしいです。

　

早稲田みょうがの「みょうがの子」　　　　　　　　早稲田みょうがの「みょうがたけ」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　資料提供：江戸東京・伝統野菜研究会　大竹道茂